

# 話し言葉における接続表現の意味・機能に関する考察

## A Study on the Meaning and Function of Conjunctive Expressions in Oral Japanese

原田 朋子

### 要 旨

本稿では、話し言葉の中から接続表現「しかも」、「でも」、「だって」、「だから」を取り上げ、フィラー化しにくいものと、フィラー化することがあるものを明らかにした。

「だって」には、呼応する特定の文末表現が相当数あり、特定の文末表現と呼応していないものの中に、「だって」の後件が理由や反論ではなく、フィラー化しているように思われるものが確認できた。「だから」についても、元来の意味・機能<sup>1</sup>の他に、話題を元に戻そうとしたり、説明の途中でまだ説明が続くことを聞き手に知らせるなどの発話権の維持や、間つなぎや発話の切り出しのような話し手の心的態度を表すものも見られた。「でも」に関しては、元来の意味・機能から逸脱し、発話の切り出しや発話権の維持として使われている例や、相槌以外にどのような心的態度かが聞き手に理解できないような例など、フィラー化している用法も認められた。「しかも」は、本研究では元来の意味・機能を有するものしか抽出されず、その他の例は見出せなかった。

さらに、本研究では、「でもやっぱり」のように、「でも」が同じ文の中で、「やっぱり」と連続して使用される際に、「やっぱり」との間に「間」が置かれず、およそ一語化し、「でも」が「やっぱり」に順応していると思われる例を見出した。これについては、「でも」と「やっぱり」の親和性の高さがあることを指摘した。加えて、その要因として、もともと「でも」が前件を受けて後件へつないでいくという関係性に優れているということ、また、副詞としての「やはり」が他の様態副詞、陳述副詞とは異なり、「承前性」を併せ持つものであるということに言及した。

### キーワード

日本語 話し言葉 接続表現 副詞 フィラー化

## 1 はじめに

原田 (2021) では、話し言葉における副詞と接続表現について、主に発話者の年代といった位相の観点から特徴情報を抽出したのち、それらの中で、元来の意味・機能から、いわばフィラー化しているものがあるという実態を突き止めた。そして、原田

(2022) では、その続稿として、副詞を取り上げ、対象語とそれがかかる述語との間の文節数などの観点から、より詳細な分析を行った。副詞の分類との関連性については、客観的な描写を表す様態副詞とは異なり、「けっこう」、「かなり」のような潜在比較の程度副詞が話し言葉での意味・機能が弱化する傾向があることが認められ、陳述副詞に関しては、「たぶん」、「きっと」、「べつに」等について誘導の機能が弱化した際に意味も弱化し、とりわけ、「やはり」のようにさまざまな評価性を有する副詞は、話し手の述べたいこと的前提が明確に表面化されていない中でも多用されているということを描いた。その質的分析過程で、接続表現にも似たような傾向を示すものがあることに気づいていたが、原田(2022)では扱えなかったため、本稿をさらなる続稿として、分析を行いたい。

接続表現についても、話し言葉で多用されるからといって、あまねくフィラー化という現象が起こり得るわけではない。では、一体いかなる接続表現が、いかなる場合に元来の意味・機能から逸脱して使用されるのだろうか。本研究では、その実態を明らかにすることを目的とする。

## 2 接続詞とフィラーについて

集英社『国語辞典』(第3版)には、接続詞について、以下のような記述がある。

語と語、(連)文節と(連)文節を結び、句と句、文と文を接続詞は結ぶ。単独で文節を構成し、かつ、後続の語なり文節なり、句なり文なりを実質概念的に修飾するものではない。他の品詞からの転成が多い。句と句、文と文を結ぶ接続詞は、そうであることの当然として、連結の論理的意味を、接続助詞にみられる意味の種類と幅程度に、表現し分ける。という在り方において、後続の句・文を関係的に限定するともいえる。

本研究では、接続詞を単に文と文を結ぶだけの存在ではなく、上述の引用のように、そもその意味・機能として、後続の文を「関係的に限定する」ものであると定義する。そして、本稿においても、接続詞は、副詞のように語なり句なりを実質概念的に修飾するものではないと考えるが、他の品詞からの転成もたしかに多いため、本研究で抽出されたものを「接続表現」と呼ぶことにする。

また、話し言葉における談話標識の一つにフィラーがある。「場つなぎ言葉」、「間つなぎ言葉」、「言いよどみ」、「無意味語」のようなさまざまな言い方がなされるが、本稿では、定延(2016)や多数の先行研究のように、そういった機能を有する談話標識を「フィラー」と呼ぶ。

フィラーについて、中島(2011)は、本来の語彙的な意味から離れて用いられ、それを取り去っても文・談話全体の命題的な意味や内容が変わらないような表現と述べている。さらに、中島(2011)は、自然談話のフィラーは、その出現位置が発話頭か

発話中か発話末かによって、談話の中で果たす機能が異なり、発話頭に出現するフィラーは、発話境界の明示、発話の切り出し、発話権の維持、前の発話の補正、話し手の心的態度の表出等の機能を持つとし、発話中に出現するフィラーは、発話展開に関与する機能として間つなぎ語、注意喚起、話し手の心的態度の表出等といった機能を持つとしている。そして、発話末に出現するフィラーは、言いよどみ・言いさし、発話終了という機能を持つと述べている。

本稿では、上述のことを踏まえて、意味的にも機能的にも非常に表現しにくい、曖昧な中間段階があるような現象のことを「フィラー化」と限定しておく。

次章からは、話し言葉のコーパスを用い、まず、テキストマイニングにより、分析対象とする接続表現を絞り、例文の中での具体的な現象を考察する。

### 3 テキストマイニングによる分析

#### 3.1 分析対象とテキストマイニングのツールについて

本研究の分析対象は、総字数 2,017,338 字の『名大会話コーパス』<sup>2</sup> (129 会話) である。本研究の手法の一つであるテキストマイニングによる分析を実行するにあたっては、障害となる記号やルビや注釈等を一旦削除（データクリーニング）した。その上で、金明哲氏によって開発された MTMineR (Multilingual Text Miner with R) を用いて分析を行った。MTMineR は、テキスト型データを構造化して集計し、R<sup>3</sup> を用いて統計的に分析するソフトウェアである。

#### 3.2 出現頻度に関する分析結果

前節の手続きの次に、全てのテキストの中から接続表現を抽出するために、まず MeCab により分析対象全体に対して形態素解析を実行した。そのうち、「接続詞」を MTMineR の n-gram を用いて抽出し、集計したものを Wordcloud で可視化したものが図 1 である。



図 1 接続表現の出現回数

統計的分析から、全会話中、接続詞として抽出されたのは、84種類、延べ17,674例であった。原田(2005)において、小論文のような書き言葉では、「しかし」、「また」、「そして」、「すなわち」、「例えば」、「つまり」、「だが」、「あるいは」、「したがって」、「ところが」等の接続表現が多く見られ、中でも「しかし」、「また」、「そして」は突出して出現回数が多いことを明らかにした。一方で、本分析では、話し言葉で突出して出現回数の多いものは、「でも」4,053回、「で」3,268回、「だから」2,845回であった。原田(2005)では、小論文のような論理的な文脈展開の書き言葉を対象としたのに対して、本研究の対象は特段に論理構成の求められるようなものではない話し言葉を対象にしたが、話し言葉においても、逆接の意を表す「でも」が最も多かった。類義の「だけど」や「けど」や「が」等を加えると、逆接の意の接続表現の出現回数はさらに増える。しかし、意味・機能別に俯瞰すると、逆接よりもむしろ多く見られるのは、順接の確定条件を表す接続表現であることが書き言葉とは異なる。例えば、順接の確定条件を表す接続表現に見られたものに「で」、「だから」、「それで」、「ほんで」、「そこで」、「ですから」等が挙げられる。また、「だって」のように説明、注釈の意味・機能が多く見られることも特徴的であった。

## 4 目視による分析

### 4.1 分析対象と方法

本章では、接続表現が含まれる文脈を目視によって分析した。接続表現を含む会話を『名大会話コーパス』の中から抽出する際には、指定した接続表現と、その前後の文脈を原文から抽出することができる MTMineR の KWIC 検索機能を使用した。ただし、目視による質的分析においては、談話展開を詳細に把握するために、前章とは異なり、敢えて、例文中の < 間 > や < 笑い > 等を削除せずに考察した。分析対象とした接続表現は、出現回数の多かったものの内、「でも」、「だから」、「だって」、「しかも」である。

### 4.2 「だって」に関する分析

本節では、反論や理由を後件で説明する「だって」について分析した。『明鏡国語辞典』(第三版)には、「だって」は以下のように記載されている。

- ①反論の意を表す。そんなこと言っても。
- ②先に述べたことに対して、理由や状況を説明する。なぜかというと。

「だって」に後続する(前接する場合もある)例文には、「だって」と呼応する特定の文末表現が相当数あることが確認できた。図2は、「だって」の文末表現と「だって」との呼応関係を分析し、集計したグラフである。図2から、「だって」と呼応する文末

表現は、「～んじゃない。／～んじゃない。」が19%と最も多く、次に「～（だ）もん。」が17%、「～でしょう。」が10%、「～わけでしょう／わけじゃない／わけだから。」が6%、「～（だ）から。」が5%、「～し。」が4%と続いていることが判明した。これら約7割は、「だって」より先に述べられていることと、「だって」の後続（または前接）部分が理由や反論を示しており、そのことが例文<sup>4</sup>（1）～（6）のように、文脈からも確認できる。一方で、特定の文末表現と呼応しておらずとも、例文（7）、（8）のように、「だって」の後件に「だって」よりも前の文脈で述べられていることの理由や反論の意があるものも多く見られる。

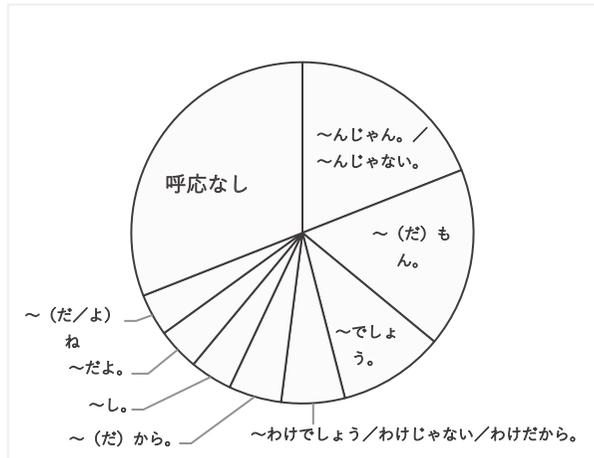


図2 「だって」と呼応する文末表現

例文（1）

M033：残業とかなかったらいくらだと思う。

F001：知らない。

M033：12万いくらよ。（ふーん）<sup>5</sup>バイトの方が稼げるって話でしょう。（ふーん）残業はね、ひと月目いっぱいやっても一、20万いくかいかなか。

F001：こんな不況なんだから、再就職だって難しいでしょう。

M033：知らん。

F001：だから。

M033：そんな悩むことじゃねえ。

F001：なんでそんな余裕なのかわからん。

M033：ええっ？

F001：ええ、だって、すごい仕事変えるなんて大変じゃん。すごい、次にさあ、もっと給料のいい会社から来てくれっていう話があるんなら別だけどー。ただ給料悪いからって辞めるっつってそれからどうすんの？

M033：若いからいいんじゃない。

（『名大コーパス』046）

例文（2）

F093：あんなに降ったことないよ、今まで。

F101：うちもねえ、なんかお正月は珍しい、かな。お正月に降るのは。もうだって。

F093 : すごい、だって30センチぐらい降ったもん。 (『名大コーパス』080)

なお、発話者 F101 の述べている「うちもねえ、なんかお正月は珍しい、かな。お正月に降るのは。もうだって。」の「だって」は前件に述べられていることの状況説明を強調しているように思われる。

例文 (3)

M034 : (うーん) 少しの間、全然、牛肉食べなかったの？なんか、すごいことになってるみたいだね。

F004 : ううん、本検査が始まってもやっぱりあれだったんじゃない？買い控えはあったんじゃないの？

M034 : へー、そんな、だって、検査済みって書いてあったら、大丈夫なんでしょ？

F004 : うん、らしいけどさー。 (『名大コーパス 092』)

例文 (4)

F032 : そうじゃないの？わたし、見る時間がもう決まってるから。

F098 : うん、わたしだって決まってるわよ。

F032 : 9時ごろまでしか見ない。

F098 : 朝？

F032 : うん。

F098 : わたしは8時ごろまでだもんね。

F032 : あ、そう、だって、始まりが違うわけでしょう？

F098 : そうそう。

F032 : わたしは早くて8時だもん。 (『名大コーパス』009)

例文 (5)

F128 : そっかー。ね、え、でも F037 ちゃんはさ、(うん) A、何、A 先生、A 先生の話すると、私なん、顔がにやけるから。

F037 : なんで、なんで？<笑い>なんで、なんで？すごい興味ある。なんでにやけるの？

F128 : え、だって好きだから。

F037 : へー。 (『名大コーパス』098)

例文 (6)

F086 : そう、そうなん。邦画ってさ、あんまさ、こう、映画館で見たくないよね。(中略) なんかね、邦画とかってお金出して見たくない、私も、全然ー。だから。

F046 : そうそうそう、だってお金を出して見る迫力もないしー、(そうそうそうそう)っ

て言う人なんだー。

F086：うん。 (『名大コーパス』 072)

例文 (7)

F001：工業出た人ってどこ就職すんの、みんな。工場系？

M033：そうだよ。(ふーん) みんなそうよ。

F001：ねえ、私の友だちの工業の人と前会ったけど、すごい羽振りよさそうだったよ。

M033：そりゃあ、だって実家から行っていりゃあ、月に給料安くなつてそれなりに金は持ってるよ。 (『名大コーパス』 046)

例文 (8)

F021：あんたも食べれなくはないでしょ。

F015：食べれなかったんだけど食べて、去年の腹痛、腹痛。クリスマスあつた。あつたんだよね。

F021：あれ、だって、なべ用のカキだった。 (『名大コーパス』 025)

しかしながら、特定の文末表現と呼応していないものの中には、特定の文末表現と呼応しているものの中には見られなかったにもかかわらず、「だって」の後件が理由や反論ではなく、「だって」の意味・機能が曖昧なもの、いわばフィルター化しているものが例文 (9) のように存在していた。

例文 (9) の発話者 F155 は、理由や状況を説明しているわけではなく、ましてや F021 に反論しているわけでもない。理由や状況を説明しているのは F021 の方で、F155 はむしろ、それに賛同している。この「だって」は F155 が F021 の心情に寄り添っていることの出でである可能性もあるが、いずれにせよ、「だって」の元来の意味・機能は見出せず、用法的にフィルター化しているように思われる。

例文 (9)

F021：何か、中退しちゃおうっていう気はないみたいだけど。(あー) 何とかなるさっていう。(あー) 遅いんだけどね。そういう考えだと私もいつまでも待っててくれると思ってると思うよってことを言いたかったわけ。(うんうん) いいかげんにしないと、ほんと見捨てるからねって。

F155：うん。そっかー。ちょっと、ちょっと自立してないねーって感じよね。

F021：あー、ちょっと。＜笑い＞(へーそうなのかー) だからさ、ほんとうらやましい、ちゃんと働いててさー、お金も取れててさー、ちゃんとしてる彼氏で、それでけんかするなら、すごいけんかしたいよ、私は。＜笑い＞とってもけんかしたい、そんなこと意見くいちがっても。でも、何にも持ってないゼロの人と、(あー) まとも

にやり合うこと自体があほらしくて、<笑い>知らんって。もう。

F155：そう。何言ったって、だって絶対、おかしい。

F021：だって、開き直ってんの。何も無いことは知ってるけど、自分自身で。(あー) だってしょうがないじゃんって。(うーん) それは無いじゃないでしょうって言って。(あー) すごい言い訳がましいのね。(あー) 何か、すごい考えるんだって、これじゃまずい、これじゃまずいって。 (『名大コーパス』026)

#### 4.3 「だから」に関する分析

『明鏡国語辞典』(第三版)には、「だから」は以下のように記載されている。

- ①前に述べたことを理由として、その帰結を導く語。そういうわけで。それゆえ。
- ②相手の発言に対して反抗的な気持ちを示す語。
- ③《「だからといって」の形で》そういうわけであったとしても。

例文(10)中の「だから」の前の「だけどさあ」は、「大学の時の話なんだけど」と言いたいのか定かではないものの、前件の「水曜日は朝練で5時半起き」ということを理由として、「だから」が後件の「火曜日早く寝たい」という帰結を導いているということが窺える。

例文(10)

F128：大学んときさあ、水曜日朝練だったじゃんね。(うん) 5時半起きでなんかすごい中途半端な時間だもんでー、(うん) すごい混んで間に合わんもんでー、8時からなんだけど6時ぐらいのに出るじゃんね。

M023：大学時代のとき。

F128：大学んときね。(うん) うん、だけどさあ、だから火曜日早く寝たいわけ。

M023：ああ、わかるけど。 (『名大コーパス』087)

次の例文(11)では、発話者M029がオーストラリアのブルーマウンテンズは車で行くと、一番上に先に行ってしまうため、さながら山下りだということを述べているが、発話者M017は行ったことがないので、話題の焦点がやや逸れかけている。M029は山登りではなく、「山下り」だということをしきりに強調している。M029は「山下り」の経験を話したくて仕方がない様子で、M017の言葉を受けてではなく、自分の前言の続きで、「だから」を使用している可能性がある。その場合は、前言の「山下り」を理由として、「楽だ」という帰結を導いているとも受け取れるが、話題を元に戻そうという発話権の維持といった意味合いであれば、半ばフィラー化しているように思われる。

例文 (11)

M029：オーストラリアのブルーマウンテンズも（ああ、はい）さ、まず車で行くと一番上に先に行っちゃうんですよ。

M017：なるほど。

F098：ええ。

M029：それから下りていくんですよ。＜笑い＞山登りじゃない、山下りなんですよ。

M017：僕は知らないです、オーストラリアはね。Q 先生がさんざん言われて（ええ）、来ないって言われて結局出られなくて、（ああそうなんですか）一度も行ってないんです、残念ながら。O 先生がいらしたときにね、＜笑い＞伺っておきよかったですね。

M029：いやあ、だから、さい、最初は下りるから楽ですけどね、これ登るんかと思ったらね、大変ですよ、ほんと。＜笑い＞日本だとまず登って（ええ）下りるという感じがあるけど。

M017：はいはいはいはい。 (『名大コーパス』024)

例文 (12) の「だから」には、前後の文脈で、理由と帰結や、前件に対する反論の関係性は読み取れない。強いて言うならば、説明の途中に、説明が続くことを聞き手に知らせるための、発話権の維持という心的態度の表出のように見受けられる。もしくは、間つなぎである可能性も否定できない。

例文 (12)

F086：しかも誕生日ですーって言ってくれるとなんか、祝ってくれてー。(うんうんうん) だれもないんだけど、(＜笑い＞) この人が誕生日ですって言って＜笑い＞、(＜笑い＞) (超受ける) そうそう、なんか、店員さんがこう、だから、ね、いろいろ鳴らしながら来てー、おめでとうございまして来て。(うそー) うん、(いいねー) なんかパフェの上に花火とかが乗ってて、(へー) よかったよ、それ。

(『名大コーパス』072)

例文 (13) の「だから」も、前件が理由、後件が帰結という関係性を表していない。言うなれば、発話者 F093 がこれまで話題になっている内容について思い当たることがあり、「だから」によって、それを切り出そうとしているように読み取れる。これから言おうとしていることがあることを聞き手に知らせようという、いわば発話の切り出しのような話し手の心的態度が表れているように思われ、フィラー化している。

例文 (13)

F057：そう、あとだれがいたっけねー。最近、最近、若い人って出てる、出てるの、だれか？

F001 : 最近さー、何かさ、ポスト、ブラッド・ピットだかディカプリオだか知らないけど、(うん) すごい変な顔の男がいない? 若い男で、(うん) 何がいいのみたいなく笑い>人がすごい人気になってない? 最近。

F093 : 本当。

F057 : だれだろう。

F093 : あのさ、(最近の\*\*\*<sup>6</sup>) ポストさー、ブラッド・ピットか何だか忘れたけどさー、今、何か、「オー」っていう映画やってるの知らない? (うーん、ふんふんふん) あ、だから、あれだ。

F001 : あ、そう、その人、その人。

F093 : あの人でしょう。「パール・ハーバー」の人だ。 (『名大コーパス』086)

また、例文(14)中において、発話者M036が使用している「だから」は、前接する「でも」の方に文脈の関係を成立・限定させる役割があるように読み取れる。この例文中の「だから」は、「でも」と連続して使用されることにより、発話者M036の反論の心的態度がないとは言いつれないが、そうだとした場合、この「だから」には前後の文脈の関係を限定する役割は特になく思われる。

#### 例文(14)

M036 : テレビつけたら、めっちゃ混乱するだろうな。

M035 : だめなの、テレビは。たぶん、わかんないけど。

M036 : そりゃだめだろ、わかんねえもん。でも、だから、こんなさあ、書きとめるぐらいだったらさあ、(うん) テレビの会話とかじゃだめなのかなあ。(『名大コーパス』119)

#### 4.4 「でも」に関する分析

本節では、逆接の「でも」に関する分析を行った。『明鏡国語辞典』(第三版)には、「でも」は「前に述べた事柄と相反する事柄を述べる語。」という記述がある。

例文(15)は、前に述べられたことに相反する事柄が「でも」の後に述べられている。

#### 例文(15)

F137 : そう、かなり、ほんとにおもしろいんだって、B君。

F114 : ほんと? え、どんな系でおもしろい、おもしろいにもいろんな種類があるじゃん。

F137 : たぶんバカ系だと思う。

F114 : でも、Dの理工入るぐらいだから、頭いいよね。 (『名大会話コーパス』066)

次の例文(16)では、発話者が「結構おいしかった」と後件で述べている。発話者の心中に「生協はおいしくない」あるいは「半熟卵がのってなければおいしくない」

等の前提意識があった場合は、逆接の関係が成立する。一方、そのような前提が発話者にはない場合は成立せず、話をつなげるための間つなぎの可能性もあり得る。

例文 (16)

F021 : 何か食べたいなー。

F048 : 生協で食べた。

F127 : 生協かー。

F021 : ちゃんとしたところで食べた方が。

F048 : うん。でもねー、結構おいしかった。上に、何か半熟卵みたいな、温泉卵みたいなのが乗っててー。  
(『名大会話コーパス』006)

次の例文 (17) では、「でも」が「だって」と連結して使用されている。「だって」が使用されていることから窺えるように、後件の「大垣市役所の短大枠 50 倍で受かった」は、先に述べた「すごい」の理由を表している。一方で、F021 が先に「短大で？」とやや懐疑的に聞いているのに対して、F155 は「(たしかに短大枠かもしれないが、)でも、50 倍の倍率を突破したんだ」と言いたくて「でも」を使用している可能性がある。その場合、「でも」の前件は言葉として表れておらず、「でも」の前件と後件が相反することなのかどうかは判断しにくい。

例文 (17)

F155 : そうそうそう。でも一応受けて、受かっちゃったみたいなの。

F021 : すごいねー。(うん) 短大で？

F155 : そうそうそうそうそう。

F021 : へー、そうなんだ。

F155 : うん、すごい、だって、でも大垣市役所の短大枠 50 倍で受かったっていうから。

F021 : すごい。  
(『名大コーパス』026)

以下の例文 (18) の「でも」は、逆接はもとより、前件と後件で相反する関係を限定しているとは読み取れない。さりとて、相槌以外にどのような心的態度が表れているのか、聞き手にも理解できないであろう。

例文 (18)

F128 : あの一、田舎の方は。

F107 : もう田舎の方はのんびりしたもん。(ふーん) て感じかな。

F128 : はあ、でもそうなんだねー。

F107 : でもロンドンに行くと、わっ、ちょっとこう、あっボリスがいる。

F023：すごいよくわかるじゃんね。

(『名大コーパス』002)

なお、「でも」の抽出例の中には、「でもやっぱり」のように、「でも」に評価性の要素が強い副詞の「やっぱり」が連結して使用されている例が4,053例中117例と少なくとも確認できた。そのほとんどは「でも」と「やっぱり」が各々の意味・機能を有しているが、「でも」が使用されていても、前件と後件が相反する事柄というよりも、むしろ「やっぱり」が前件と後件の関係性に関わっているという例が2割程度認められた。次の例文(19)は、「でも」と「やっぱり」が連結しても、各々の意味・機能を有していると思われる例である。「でも」には、前件と後件の間に、「デルタはつぶれていないが、本数は減らしている」という逆接の意味・機能がある。

例文(19)

F098：昔のパンアメリカンってつぶれちゃったじゃない、あれ。

F011：うん。

F098：だからわかんないよね、次も。どこが次つぶれるかっていう。テロのときにどっかやめなかったっけ、どこかもう。忘れちゃった。まさかデルタじゃないよね、なんて。飛んでるんだもんね、まだ。切符買えるんだもんね。どこだったか。どこだったんだろう。

F011：でも、やっぱりその、本数は減らしてるみたいですよ。

F098：うん。

F011：ノースウエストも1週間に1便は減らしたから、どうとかこうとかって。

(『名大会話コーパス』018)

例文(20)は、F004が以前のことを回想しており、「会社を辞めてしばらく主婦をやっていて、最初はそれほどでもなかったけれど、でも、やっぱりつまらなくなって…」のような心理が働いており、このような表現になった可能性もある。例文(19)のように、「でも」の後件が前件と相反する事柄とまでは言えないかもしれないが、「でも」は逆接の意味・機能を逸脱してはいない。ただ、「でも」があることによって、前件を受けて、後件に話題がスムーズにつながっていると言えよう。

例文(20)

F004：うーん、Kって会社、あるじゃん。

F029：うん。

F004：あそこに行ってたの、最初は。

F029：うん。

F004：で、結婚してー、会社辞めてー、で、でも、やっぱり主婦はつまらないから退屈

だからー、だからーなんか働きだしちゃってね。 （『名大会話コーパス』021）

一方で、以下の例文（21）～例文（24）は、「でも」が使用されていても、前件と後件が相反する事柄という関係を明確に表しておらず、且つ「やっぱり」が前件と後件の関係性に関わっている例である。

例文（21）は、発話者 F011 が料理を作っているか否かについて M020 と M008 に問うている。発話者 M020 は「レトルトかいため物」で、発話者 M008 は「料理をしない」と答えている。それを受けて、F011 は「やっぱり（私も）4人家族の時は毎日作っていたが、2人になったらやる気がしない」と返している。この「やっぱり」は、M008 と同じくという意で、「やっぱり」は F011 の「やる気がしない」に前提があることを示している。このように、F011 は M008 の発言に相反する事柄を述べているわけではないため、下線部の「でも」の前件と後件の間には逆接の関係が成立していない。強いて言えば、「でも」によって発話を切り出したように受け取れ、フィルター化していると思われる。

例文（21）

F011：M020 さんは、そんなら、毎日何食べてんの、夜？

M020：大体えーと、食材は入れてってくれるから。レトルトか、いた、いため物とかだったらすぐできちゃうし。

F011：M008 さんはしないよね？

M008：このところはね。

F011：あー。なんかでもやっぱりあれよねー。私でもそうやけど、うん。（こないだー）昔は4人子ども、4人子どもじゃないよ。子どもも含めて4人家族のときは、それなりに毎日いろいろ作ったけど、2人になっただけでも、もうなんかあんまりやる気がせえへん。 （『名大コーパス』089）

例文（22）は、前半部分で伊吹山スキー場の雪について会話が繰り広げられている。ところが、会話の途中でお茶のことに話題がシフトしている。先に述べられている M009 の「奥のほうにつくっとるやろう。」の対象については、会話の全体像を確認しても、何を作っていると言っているのかが定かではないが、M009 が「奥のほうにスキー場を作っている。」と言っていたとしても、お茶の話が挿入的に間にあることから、F050 は下線部の「でも」によって、M009 に直接的に相反することを述べているというよりも、お茶の話題から雪の話題に話を戻そうとしているように読み取れ、発話の切り出しとして機能しており、いわばフィルター化しているように思われる。

例文 (22)

F042 : なんでもそこで落ちちゃうから。<笑い>だから、伊吹山なんかいいスキー場やったんやけども、結構なんか、もう雪があんまりなんていうの？ (うん) 少なかった。昔は結構降ったけど、ほんでスキー場も結構だめだったけど、ここんとこまたあれやね、きつと。(うん)

F050 : でも雪が結構深いって言ってたよ。なんかスキーに行かれる先生がいてさ、伊吹のこっちの方に。1回埋もれると1人で رفتたりすると、\*\*\*でいくと、だれかに助けてもらわないと起き上がれないぐらい深い雪のそこやったってよ。その、浅いとこだと自分でなんとか起きあがれるけど。だれか来るまで、<笑い>助けて一てやってないと。だから結構人がいないと怖い。埋もれたままになってしまう、言ってたけどどうなの？ 減ったわね、一時よりはね。

F042 : うん、昔。でも、うん、か。

M009 : 奥の方につくっとるわなあ。

F050 : うん？

M009 : 奥の方につくっとるやろう。

F050 : うん。

F042 : お茶は？ とりあえずはあるんよ、そこに。

F050 : うん、お茶っ葉入れてあるよ。

F042 : お湯は？

F050 : お湯？、お湯は。

F042 : 沸かさないといけない？

F050 : 沸いてるかもしれん、けどわからない。

F042 : そう。

F050 : でもやっぱり子どものときより雪降らなくなったもんね。(ん?) 子どものときよりもねえ、雪がね、降らなくなったと思うけどねえ。(うん) という気がする。

F042 : 1年に、ここだと、ま、2回か3回ぐらいはあれだけど、(うん) こんなには降らないよね。(うん) (『名大コーパス』083)

例文 (23) の「でも」も前件と後件が相反する事柄ではなく、後続の「やっぱり」に順応し、「でも」は用法的にフィラー化している。両者の力関係には優劣の差が認められ、「やっぱり」の方が優位にはたらいている。

例文 (23)

M016 : 結局、扁桃腺。やけど見立てはもう全部おんなじやってん。ただ1回目の、医者でくれた薬はやっぱり弱かったからあんまり効けへんかって熱が下がらへんかって、で、救急病院でくれたやつは、ちょっときつめのくれて、こう下がった。

F130：ふーん。でもやっぱり薬で熱が下がるんですね。（『名大コーパス』111）

例文（24）の前件は、「海外の大学に行ったとして、大学に入る前に2年間留学しておいて、そこからまた大学に4年間行くなんていうのは（長い）」という意であり、後件は「もうちょっと短い時間で大学に入れるようになればいい」である。「だから」は、前件を理由として後件に帰結するという意味・機能で、前件と後件を結んでいる。「やっぱり」は後件に前提があることを示している。この前件と後件は「だから」があるように、あくまでも順接の関係であり、「でも」の意は成立しない。

例文（24）

F074：例えば、ま、どこか海外に、私は2年も留学したことはもちろんないんで、（うん）ねー、行ったとしてー、はたして、<笑い>そこからまた大学に4年間行くなんていうのは。うん、だから、でもやっぱり、もうちょっと、ねー、短い時間で大学に入れるようになればいいのかなーなんて思ったりもしますけど。

（『名大コーパス』054）

この「でもやっぱり」の現象についての分析の詳細は、次章の考察に譲る。

#### 4.5 「しかも」に関する分析

本節では「しかも」の例文を分析した。『明鏡国語辞典』（第三版）には、「しかも」について、以下のように記載されている。

- ①前に述べたことにさらに他のことが加わる意を表す。その上。
- ②前に述べたことと対比的なことが次に続く意を表す。それでもなお。

例文（25）、（26）のとおり、「しかも」は元来の意味・機能を有するものばかりであり、本研究では、その他の例は見出せなかった。

例文（25）

F086：でも週4とかやると結構きついんだよね、バイトが。

F046：きつい？

F086：うん。すさむよ。すごい。

F046：本当すさむ。なんかさ、時間に余裕がないもん、今。

F086：うん、死ぬ。

F046：生活に。

F086：私、あれ、一瞬、学生なのかしらと思う。

F046：そうそうそうそう、フリーターみたいな勢いだよね。

F086：そうそう。すいません、みたいな。たまに授業休んじったりしてさ。あれーみ  
たいな。

F046：しかもさ、私、今教習も行ってるじゃーん。

F086：そうだよ。キツキツじゃない。 (『名大会話コーパス』072)

#### 例文 (26)

F023：移ったばかりだから借りるのにロンドンの近くだと、やっぱすごい高くて、家  
賃が。しかも次の月の分まで家賃を払ってから入らなきゃいけないだって。だ  
からあの、すごい私今、貧しくて、部屋は広いんだけどエンプティだとか。<笑  
い>

F128：そうなんだ。 (『名大会話コーパス』002)

## 5 考察と結論

以上の分析から、話し言葉で多用される接続表現「だって」、「だから」、「でも」、「しかも」について、考察結果を以下にまとめる。

反論や、先に述べたことに対する理由や状況を説明する「だって」については、「だって」に後続する（前接する場合もある）例文には、「だって」と呼応する特定の文末表現が相当数ある。一方で、特定の文末表現と呼応していなくても、「だって」の後件に「だって」よりも前の談話で述べられていることの原因や反論の意があるものも多く見られる。しかし、特定の文末表現と呼応していないものの中には、「だって」の後件が理由や反論ではなく、「だって」の意味・機能が曖昧なものや、「だって」の元来の意味・機能が見出せず、フィルター化しているように思われるものも確認できた。

次に、「だから」には、前に述べたことを理由として、その帰結を導いたり、相手の発言に対して反抗的な気持ちを示すといった元来の意味・機能の他に、話題を元に戻そうとしたり、説明の途中にまだ説明が続くことを聞き手に知らせるなどの発話権の維持という心的態度の表出として使用されている例や、間つなぎや発話の切り出しのような話し手の心的態度を表すものなど、フィルター化している用法も確認できた。加えて、「でも、だから」のような形で「でも」の後続に連続して使用される場合に、「でも」の方に文と文との間の関係を成立、限定させる役割があり、「だから」には前後の文脈の関係を限定する役割は特になような用法も見られた。

逆接の「でも」に関する分析については、前に述べた事柄と相反する事柄を述べるという元来の意味・機能で使用されているものが多数であるが、「でも」が元来の意味・機能から逸脱し、発話の切り出しとして使われている例が見られたり、相槌以外にどのような心的態度かが聞き手に理解できないような例など、フィルター化している用法も確認できた。そして、「でもやっぱり」のように、「でも」に評価性の要素が強い副

詞の「やっぱり」が連結して使用されている例が少なからず確認できた。そのほとんどは「でも」と「やっぱり」が各々の意味・機能を有していたが、「でも」が使用されていても、前件と後件が相反する事柄を表しておらず、むしろ「やっぱり」が前文や前提との関係性を示しており、「でも」が「やっぱり」に順応し、両者の親和性の高さが表れている例が認められた。このような例は、抽出された「でもやっぱり」の全例中、約2割程度存在した。このことから、両者の親和性の高さが窺える。また、両者の力関係には優劣の差が認められ、且つ「やっぱり」の方が優位にはたらいっている例が確認できた。さらに、例文(24)で見たように、「でも」と「やっぱり」の間に「間」が置かれず、およそ「一語化」したと思われる例が見出せたことは大きな発見であった。このように両方が緊密に結ばれる例は、本稿の調査、考察対象の中では他に類例を見ない。これについても、やはり「でも」と「やっぱり」の相性の良さ、または親和性の高さを示すものと言える。その理由は、もともと接続詞である「でも」が持つ関係性、より詳しく述べると、前件を受けて後件へつないでいくという関係性に優れているということ、もともと副詞としての「やはり」が、他の様態副詞、陳述副詞（あるいは叙法の副詞）とは異なり、川端（1983）の言葉を借りれば「承前性」を併せ持つものであったことによると考えられる。

「しかも」は、本研究では元来の意味・機能を有するものしか抽出されず、その他の例は見出せなかった。

以上のことから、図3に「だって」、「だから」、「でも」、「でもやっぱり」、「しかも」について、元来の意味・機能から逸脱するかしらないかの傾向を分布によって示し、まとめとする。

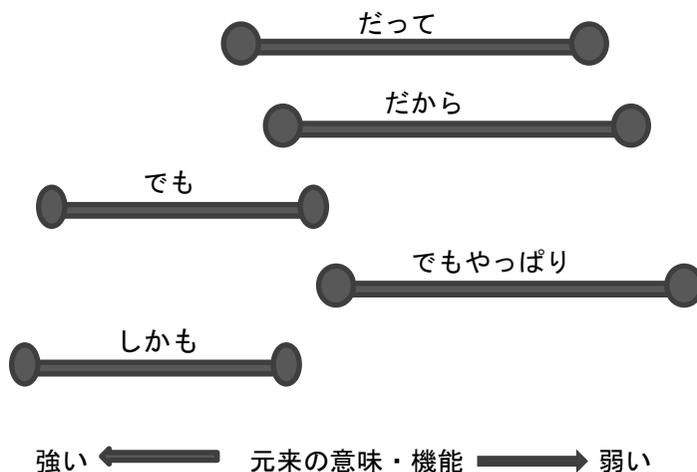


図3 接続表現の元来の意味・機能に関する分布

図3から、「でもやっぱり」、「だから」、「だって」、「でも」、「しかも」の順で、フィルター化しやすいものからフィルター化しにくい接続表現に並べられる。

## 6 おわりに

本稿では、話し言葉における接続表現に着目し、元来の意味・機能を有して接続表現らしく振る舞うものと、元来の意味・機能から逸脱して曖昧になりフィルター化するものを「しかも」、「でも」、「だって」、「だから」の順で段階的に並べた。その考察の中で、「でもやっぱり」のように、「でも」と「やっぱり」が連続して使用されている用法が一定数抽出され、「でも」と「やっぱり」の親和性の高さが表れた用例を見出したことは、本研究での特筆すべき結果となった。「でも」と「やっぱり」の親和性の高さを示す要因は、「でも」は前件を受けて後件をつないでいくという関係性に優れた接続表現であるということと、副詞としての「やはり」が承前性を併せ持つものであったことによると指摘した。本稿は、接続表現の現象を考察したものであったが、「やはり」のような副詞を接続表現の考察の角度からも見つめ直す機会となった。ちなみに、川端（1983）で挙げられた「案の定」、「図らずも」、「意外にも」と「実際」、「現に」などは、本研究の調査対象ではないので、今後、同じコーパスを使った調査によって、「やはり」との違いはないかについても明らかにしたい。

## 注

- 1 用法は文脈によって変わる使われ方であり、本稿では、機能と用法という言葉を区別して記述する。
- 2 『名大会話コーパス』は、科学研究費基盤研究（B）（2）「日本語学習辞書編纂に向けた電子化コーパス利用によるコロケーション研究」（平成13年度～15年度 研究代表者大曾美恵子）の一環として作成された、日本語母語話者同士の雑談を文字化したコーパスである。現在は国立国語研究所に移管され、文字化テキストなどを公開している。
- 3 Rとは、ニュージーランドのオークランド大学統計学科のRoss Ihakaとアメリカのハーバード大学の生物統計学科のRobert Gentlemanにより開発が始められ、1997年以降、多くの賛同者によって開発が続けられているオープンソース方式のデータ解析・処理の専用ソフトのことである。詳しくは、金明哲（2017）『Rによるデータサイエンス』を参照されたい。
- 4 紙幅の都合上、例文は必要最小限の長さに留めたが、実際の分析では、その話題に関するやりとりの全てを確認している。
- 5 例文の会話内の丸括弧は、聞き手の相槌などを表している。
- 6 名大会話コーパスの概要説明には、会話を文字起こしする際に「聞き取れる声はすべて文字化し、聞き取れない部分には\*\*\*を入れる。」と書かれている。

## 参考文献

- 川端善明（1983）「副詞の条件－叙法の副詞組織から－」渡辺実編『副用語の研究』明治書院, pp.1-34.
- （2012）「日本語の品詞－口語を中心に－」『集英社 国語辞典』第3版, 森岡健二・徳川宗賢・川端善明・中村明・星野晃一, 集英社, pp.1996-2003.
- 北原保雄編（2021）『明鏡国語辞典』第三版, 大修館書店
- 金明哲（2017）『Rによるデータサイエンス』第2版, 森北出版
- 定延利之（2016）『コミュニケーションへの言語的接近』ひつじ書房
- 中島悦子（2011）『自然談話の文法－疑問表現・応答詞・あいづち・フィラー・無助詞－』おうふう
- 原田朋子（2005）「接続表現から見た文脈展開－日本語母語話者と上級日本語学習者の小論文比較－」『同志社女子大学大学院 文学研究科紀要』第5号, pp.103-120.
- （2019）「日本語母語話者と上級日本語学習者の小論文の比較－テキストマイニング手法と目視による分析を通して－」『同志社大学 日本語・日本文化研究』第16号, pp.1-15.
- （2021）「日本語の発話における談話標識の－考察－テキストマイニング手法と目視による分析を通して－」『同志社大学 日本語・日本文化研究』第18号, pp.1-27.
- （2022）「日本語の発話における副詞の意味・機能の弱まりに関する－考察－テキストマイニング手法と目視による分析を通して－」『同志社大学 日本語・日本文化研究』第19号, pp.1-28.
- 藤村逸子・大曾美恵子・大島ディヴィッド義和（2011）「会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究」藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法：データの収集と分析』ひつじ書房, pp.43-72.

## 例文出典

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所, 『名大会話コーパス』, <https://mmsrv.ninjal.ac.jp/nucc/>